

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

20年の英國や愛国における芝平地競馬は11月上旬に閉幕し、シーズンオフに入っている。現在は障害競馬が佳境を迎えており、障害に興味がないといふ平地マニアたちが冬場に楽しんでいるのが、ブックメーカー各社が春の3歳クラシックを中心に発売しているアンティポストベット(長期前売り)だ。

来年の6月4日と5日に、いずれもエプソムで行われるG1英オークス(芝12F6y)とG1英ダービー(芝12F6y)の前売

りで、それぞれ抜けた1番人気に推されているサンタバーバラ(牝3)とハイデフィニション(牡3)が、今月のこのコラムの主役である。

両馬とも管理しているのは愛国の伯楽エイダン・オブライエンで、のみならず2頭はエイダンとアンマリーのオブライエン夫妻が運営する生産組織ウイスパー・ヴァーティング社の生産馬であり、なつかつ夫妻は2頭の共同所有者であるのだ。

オーフスの本命馬サンタバーバラの母サンタズドリームを、夫妻は13年のタタソールズ・ディセンバーセールにて1万4千ギニー(当時のレートで約252万円)で手に入れている。サンタズドリームの母スタークリーンはG1BCフィリー&メアターフを含むG1・2勝馬だが、同馬以外には近親に目だった活躍馬はなく、自身は

未出走に終っていたことなどが敬遠され、購入時に受胎していなかった父エキアーノの牝馬は未勝利に終わる後、1年空胎を

はさんで、エイダンが手掛けた英ダービー馬ルーラー・オヴザワールド(その父ガリレオ)を交配されて16年に生れたのが、ジョセフ・オブライエンが管理してG1BCフィリー&メアターフなど4つのG1を制したイリデッサである。

更に、これもエイダンが手掛けた英ダービー馬オーストラリア(その父ガリレオ)を交配されて17年に生れたのが、20年G1BCマイル勝ち馬オーダー・オブ・オーストラリアなのだ。すなわちオブライエン夫妻がわずか252万円で仕入れた繁殖牝馬が、既に2頭のBC勝ち馬の母となっているのである。

そのサンタズドリームが、これまたエイダンが手掛けた2冠馬キヤメロット(その父モンジュー)を交配され、18年に生れたのがサンタバーバラだ。同馬の2歳時の戦績は、1戦1勝。9月28日にナースで行われたメイドン(芝8F)でデビューシーし、中団追走から残り1Fで楽に抜け出して、後続に2/1馬身差をつける快勝だった。手綱をとったシーミー・ヘファー・ナン騎手は、姉イリデッサや兄オーダー・オブ・オーストラリアにも騎乗した経験があるので、レース後に「兄姉に負けない資質馬」とコメ

ント。これを受け、ブックメーカー各社は同馬に9~11倍のオッズを提示し、オーフスの1番人気に支持している。

一方、ダービーの本命馬ハイデフィニション(父ガリレオ)は、LRケアンルージュ(芝8F100y)を制した他、G3デリンズタウンスタッド千ギニートライアル(芝8F)2着、G3デスマンドS(芝8F)4着などの成績を残したパレスの3番仔にあたる。

ハイデフィニションの1つ年上の全兄に、昨年のG2ベレスフォードS(芝8F)勝ち馬で、G1フューチュリティトロフィー(AW8F)で2着に入ったハイ・シユラリーがいる。どうやらこちらも活気ある牝系の出身だ。

8月22日にカラのメイドン(芝8F)でデビューし、ここを3/4馬身差で制して緒戦勝ち。続いて出走したのが、9月26日に同じくカラで行われたG3ベレスフォードS(芝8F)で、ここも3/4馬身差で制したハイ・デフィニションは無傷の重賞制覇を果たすとともに、このレースの兄弟制覇を達成している。

この結果を受け、ブックメーカー各社は同馬に7~8倍のオッズを掲げ、ダービーの1番人気に支持している。

日本の競馬ファンも皆様も、サンタバーバラとハイデフィニションの名を、ぜひ覚えておいていただきたい。